

# 1. 河川整備計画の目標に関する事項

## 1-1 流域及び河川の概要

天塩川は、その源を北見山地の天塩岳に発し、士別市及び名寄市で剣淵川、名寄川等の支川を合流し、山間の平地と狭さく部を蛇行しながら流下して中川町に至り、さらに天塩平野に入って問寒別川等の支川を合わせて天塩町において日本海に注ぐ、幹川流路延長 256 km、流域面積 5,590 km<sup>2</sup> の一級河川である。

その河床勾配は、天塩岳から名寄川合流点付近までの間が 1/700 以上、名寄川合流点付近から音威子府狭窄部付近までの間が 1/700 ~ 1/1,000 程度、音威子府狭窄部付近から問寒別川合流点付近までの間が 1/1,500 ~ 1/2,500 程度、問寒別川合流点からサロベツ川合流点間は 1/3,000 ~ 1/5,000 程度、それより下流はほぼ水平である。また、支川の名寄川では 1/200 ~ 1/500 程度である。



出典：「土地分類図(地形分類図)北海道 (上川支庁)」(国土庁土地局、昭和 52 年)、「土地分類図(地形分類図)北海道 (宗谷・留萌支庁)」(国土庁土地局、昭和 54 年)を基に作成

図 1-1 天塩川水系流域図

天塩川流域は、北海道北部にあって南北に細長い羽状形を呈し、上川・留萌・宗谷支庁にまたがる3市10町1村からなり、流域内には約10万人(平成12年度国勢調査)が生活している。また、流域人口の約55%が名寄市と士別市に居住する等、上流域に人口が集中している。

流域の交通の骨格を成す国道40号とJR宗谷本線は、上流から中流にかけて天塩川と併走している。



図 1-2 基幹交通施設位置図

天塩川流域は亜寒帯気候に属し、年平均気温が約 6~7℃、年平均降水量が約 900~1,400mm 程度である。冬期間の積雪深は、全流域で最大積雪深が 1m 程度、美深など内陸部では 2m 程度に達する。中・上流部は内陸部に位置するため、冬の最低気温は-30℃に達し、また夏の暑さも 30℃を超える等、寒暖の変化が激しいことが特徴である。

天塩岳から名寄盆地に至る天塩川上流部は、豊かな森林に恵まれた山間部から岩尾内ダムを経て、流域及び道北地域の中心都市である名寄市及び士別市へと流れる急流河川である。山地部では林業が営まれ、名寄盆地を中心とした広大な平地部では稲作や畑作が行われている。山間の溪流では瀬と淵が形成され、水際にはヤナギ類を中心とした河畔林が広がっている。本支川にはサケ・サクラマスが遡上し、広く自然産卵が行われている。

名寄盆地から中川町に至る中流部のうち、音威子府狭窄部よりも上流は河床勾配が比較的急であり、山間の平野を蛇行しながら流れている。また中流部には天塩川の名前の由来ともなり、すぐれた景観を有し、カヌーイストを魅了する露岩地形である「テッシ」が特に美深地区までに多く存在している。美深付近は我が国の稲作北限地帯に位置し、それより下流では畑作や酪農が営まれており、高水敷は採草放牧地としても利用されている。河川周辺には自然短絡や治水事業として実施した捷水路工事による多くの旧川（三日月湖）が残されており、これを活用した美深町の親水公園では、昭和の初期まで天塩川に数多く遡上していたチョウザメの増殖研究が行われている。また、河川沿いの温泉、キャンプ施設を結ぶようにカヌーポートが設置され、多くのカヌーイストたちに利用されている。河岸には、主にヤナギ類、一部ヤチダモ、ハルニレ等が群落を形成しており、連続した河畔林が多様な河川環境を創出している。また、旧川の智恵文沼にはヒブナが生息しており、地元小学生を中心に保護活動が行われている。本支川にはサケ・サクラマスが遡上しており、特に美深地区等ではサケの自然産卵が行われている。また、テッシ周辺の静水域にはアオサギ、カワアイサ等の水鳥類が多く見られる。

下流部は、泥炭地が分布し、天塩川は大きく蛇行しながら緩勾配で流下し、河口付近でサロベツ川を合流している。沿川には、旧川が多く残されており、旧川及びサロベツ原野の湖沼は、コハクチョウ、カワアイサ等の水鳥の休息地となっている。本支川では、サケ・サクラマスが生息しているほか、イトウも確認されている。下流域では、天塩平野、サロベツ原野など広大な平地を利用した畑作と酪農が営まれており、汽水域である本川下流やサロベツ原野の湖沼では、ヤマトシジミ漁が盛んであり、地域の重要な産業となっている。

利尻礼文サロベツ国立公園内のサロベツ川一帯は、ミズゴケ類が広く分布する貴重な高層湿原であり、近年にはタンチョウの営巣も確認されている。また、観光地として多くの人々が訪れている。

流域の土地利用は宅地が約 1%、田や畑地等の農地が約 16%、山林が約 70%、その他(原野・池沼)の土地が約 13%を占める(平成 11 年度現在)。このうち、宅地、農地については増加傾向を示し、河川沿いに市街地や農地等の土地利用が進む等、資産が集積している。また、山林の占める割合についても近年やや増加している。

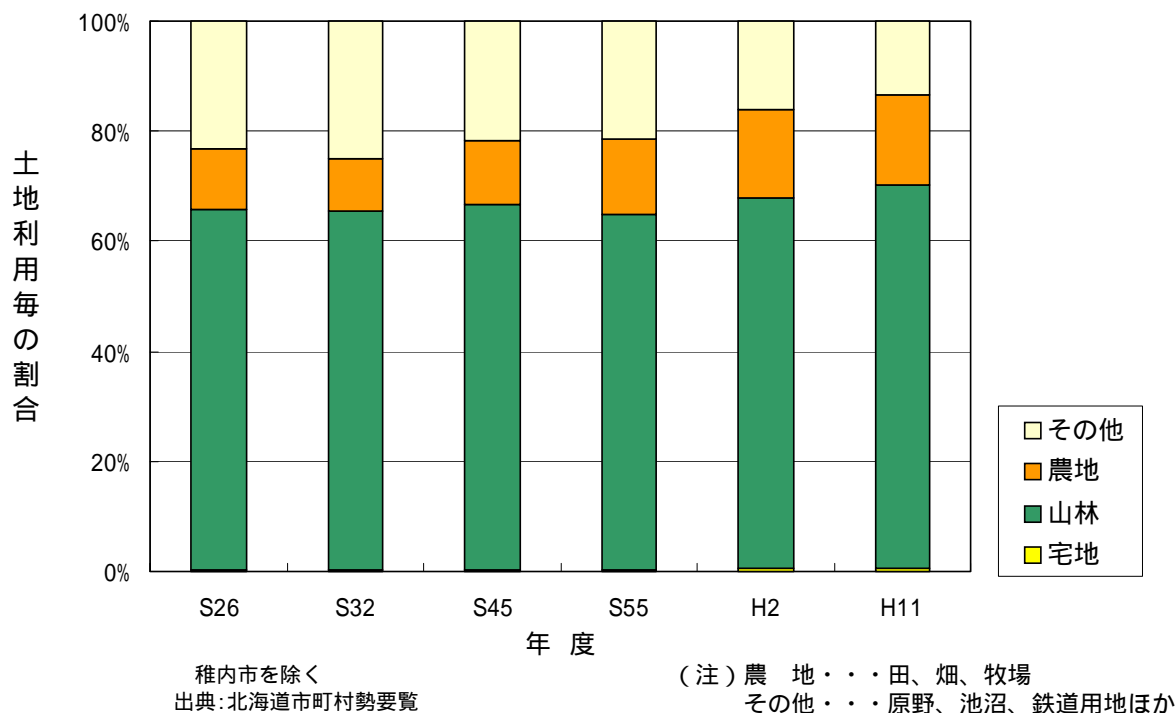


図 1-3 土地利用の変遷

天塩川流域は、農業、畜産等の 1 次産業が盛んな地域で、上・中流域では稲作・畑作、下流域では酪農を中心として多様な農作物が生産されている。特に、名寄地方において栽培されている「もち米」は、有名銘菓等からの産地指定を受け出荷されている。

汽水域である本川下流やサロベツ川及びパンケ沼では、ヤマトシジミ等の内水面漁業が盛んであり、地域の重要な産業となっている。近年ヤマトシジミの漁獲量が減少傾向にあるなか、関係機関は、ヤマトシジミ資源の保護と維持増大、生息環境の保全に関する調査及び諸対策の検討を行っている。また幌延町、中川町、美深町にはサケ捕獲場が設置されており、サケのふ化増殖事業も行われている。

また天塩川は、優れた自然と、流域 13 市町村の広域連携会議や市民団体等によるさまざまな活動や官民一体の幅広い取り組みが評価され、平成 16 年 10 月に「北海道遺産」に選定されている。

## 1-2 河川整備の現状と課題

### 1-2-1 治水の現状と課題

#### (1) 治水事業の沿革

天塩川水系の治水事業については、第2期拓殖計画の一環として昭和9年に河口における計画高水流量を $4,174\text{m}^3/\text{s}$ とし、智恵文、名寄付近の屈曲部の切替に着手したことに始まる。昭和21年7月および昭和28年7月洪水により昭和29年に計画を改定し、改修工事を進めてきた。

その後、昭和30年7月洪水の被害にかんがみ、計画を再検討して、昭和38年に計画を改定した。更に、河川法の改正により昭和41年には、一級河川の指定を受け、それまでの計画を踏襲した工事実施基本計画を策定した。

その内容は、誉平地点において基本高水のピーク流量を $4,400\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち洪水調節により $600\text{m}^3/\text{s}$ を調節して、計画高水流量を $3,800\text{m}^3/\text{s}$ とするものであった。この計画に基づき、洪水調節・かんがい用水・発電・水道用水・工業用水を目的とした多目的ダム岩尾内ダムが昭和46年に完成し、洪水被害の軽減と共に安定した営農に寄与する等、地域の発展に貢献している。

捷水路工事は引き続き雄信内、問寒別、コクネップ、大富等で実施され、現在までに25箇所捷水路が完成している。また、河道掘削、浚渫、堤防の新築および拡築、護岸の設置等を実施してきた。これにより、洪水時の水位を下げる等、流域の治水安全度の向上や農業の発展などに寄与した。

現在天塩川沿川には農地、市街地が形成され、天塩川流域の礎を築いている。

#### 岩尾内ダム

##### 【堤体及び貯水池諸元】

ダム形状：重力式コンクリートダム

堤高：58m

堤頂長：448m

堤体積：394千 $\text{m}^3$

集水面積：331.4 $\text{km}^2$

湛水面積：5.1 $\text{km}^2$

目的：洪水調節、かんがい用水  
発電、水道用水、工業用水



図 1-4 岩尾内ダムの概要

その後、昭和48年8月の大洪水では、上・中流域を中心に洪水氾濫し、浸水面積12,775ha、浸水家屋1,255戸、JR名寄駅から美深駅間が冠水で不通となる等の被害が発生した。また、昭和50年8月には、上・下流域を中心に洪水氾濫し、浸水面積11,640ha、浸水家屋2,642戸等の被害が発生した。同年9月にも、下流域を中心に氾濫し、浸水面

積 4,253ha、浸水家屋 117 戸の被害が発生した。昭和 56 年 8 月には天塩川の誉平地点流量が観測史上最大となる大洪水が発生し、浸水面積 15,625ha、浸水家屋 546 戸等全流域にわたって被害が発生した。

このように、昭和 48 年 8 月、昭和 50 年 8 月、9 月、昭和 56 年 8 月と数度にわたり、計画規模に迫る、あるいはこれを上回る大出水が発生したこと等から昭和 62 年に天塩川工事実施基本計画を改定（平成 6 年部分改定）し、誉平地点における基本高水のピーク流量を  $6,400\text{m}^3/\text{s}$  とし、このうち岩尾内ダム、サンルダム等により  $700\text{m}^3/\text{s}$  を調節して、計画高水流量を  $5,700\text{m}^3/\text{s}$  とする計画とした。同様に名寄大橋地点において基本高水のピーク流量を  $3,300\text{m}^3/\text{s}$  とし、このうち岩尾内ダムにより  $500\text{m}^3/\text{s}$  を調節することとし、河道への配分流量を  $2,800\text{m}^3/\text{s}$  とした。また名寄川の真勲別地点において基本高水ピーク流量を  $1,800\text{m}^3/\text{s}$  とし、このうちサンルダム等により  $400\text{m}^3/\text{s}$  を調節することとし、河道への配分流量を  $1,400\text{m}^3/\text{s}$  とした。平成 5 年度には、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給、発電を目的とするサンルダム建設事業に着手した。

また、平成 9 年の河川法の改正に伴い、天塩川水系河川整備基本方針を平成 15 年 2 月に策定した。この基本方針では、昭和 62 年の天塩川水系工事実施基本計画の流量を検証のうえこれを踏襲することとし、誉平地点における基本高水のピーク流量を  $6,400\text{m}^3/\text{s}$  とし、このうち流域内の洪水調節施設により  $700\text{m}^3/\text{s}$  を調節することとし、河道への配分流量を  $5,700\text{m}^3/\text{s}$  とした。同様に名寄大橋地点における基本高水のピーク流量を  $3,300\text{m}^3/\text{s}$  とし、このうち流域内の洪水調節施設により  $500\text{m}^3/\text{s}$  を調節することとし、河道への配分流量を  $2,800\text{m}^3/\text{s}$  とした。また名寄川の真勲別地点における基本高水のピーク流量を  $1,800\text{m}^3/\text{s}$  とし、このうち流域内の洪水調節施設により  $400\text{m}^3/\text{s}$  を調節することとし、河道への配分流量を  $1,400\text{m}^3/\text{s}$  とした。

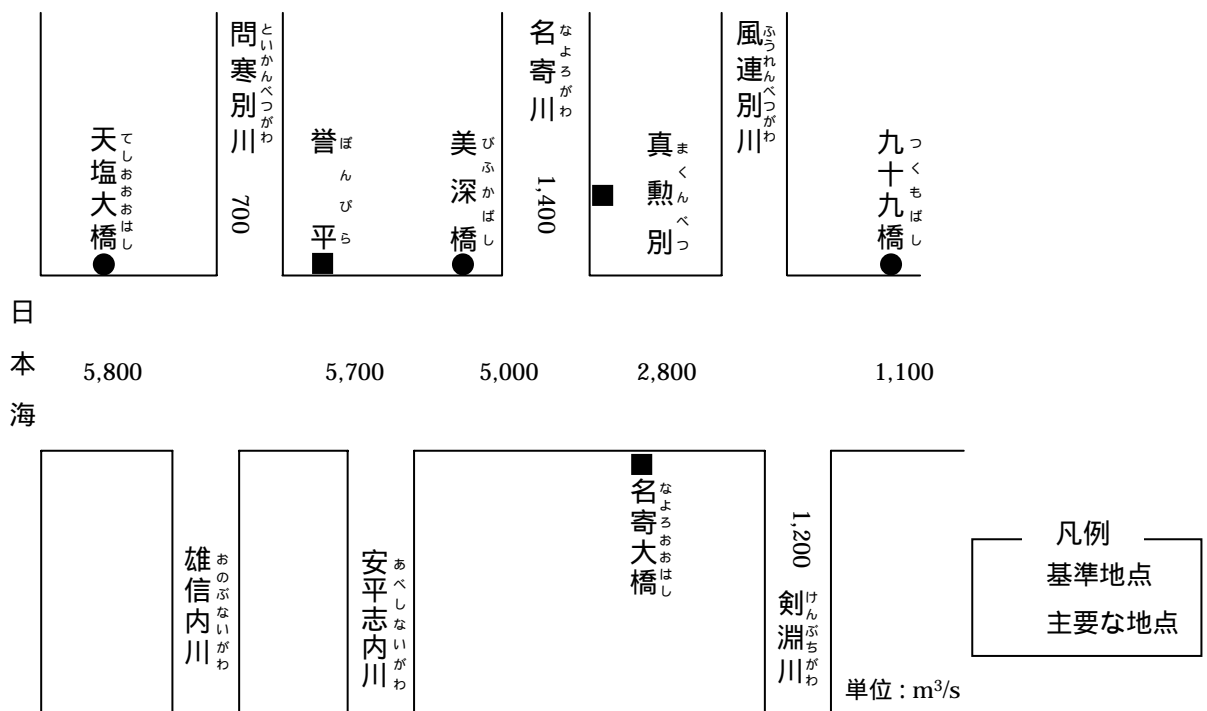
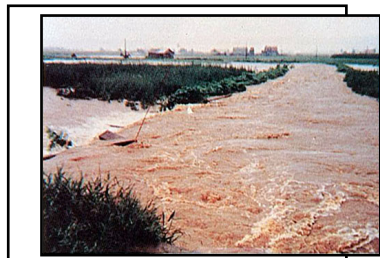
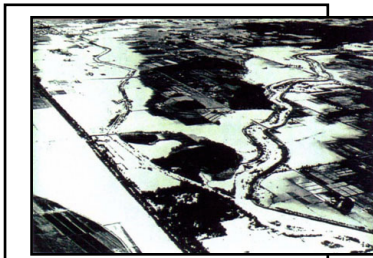


図 1-5 天塩川水系河川整備基本方針における天塩川流量配分図



十線川の溢水氾濫状況(名寄市)  
昭和 48 年 8 月洪水



剣淵川の氾濫状況(和寒町)  
昭和 50 年 8 月洪水



天塩川左岸 冠水した  
天塩町市街上流の農地  
昭和 50 年 9 月洪水



天塩川右岸 浸水した農家、農地(幌延町)  
昭和 56 年 8 月洪水



天塩川左岸 決壊した国道  
(中川町富和地先)

### 近年の洪水被害状況

表 1-1 天塩川の主要な洪水被害等

洪水発生年月日	気象原因	代表地点雨量 (mm/3日)	誉平地点観測流量 (m <sup>3</sup> /s)	被害等
昭和 14 年 7 月 28 日 ~ 30 日		197 (上音威子府)		上川支庁管内 死者 1 名、浸水家屋 180 戸、 田畑浸水 1,984ha
昭和 27 年 7 月 25 日 ~ 26 日	低気圧	92(円山)		浸水家屋 1,104 戸(同流失 2 戸、 同半壊 8 戸)、浸水田畑 400ha、 橋梁流失 15 箇所
昭和 28 年 7 月 27 日 ~ 8 月 2 日	前線	101(河口) 95(名寄)	1,620	死傷者 8 人、家屋流失半壊 31 戸、 浸水家屋 1,721 戸、氾濫面積 9,643ha
昭和 30 年 7 月 3 日 ~ 5 日	低気圧	195(上士別)	2,200	浸水家屋 2,125 戸、農地被害 2,848ha、 氾濫面積 5,907ha(天塩町・幌延町)
昭和 30 年 8 月 17 日 ~ 21 日	前線	111(辰根牛) 149(名寄)	1,510	浸水家屋 1,160 戸、同半壊 17 戸、 氾濫面積 4,927ha
昭和 45 年 10 月 24 日 ~ 26 日	低気圧	205(上問寒別)	1,250	問寒別川流域が氾濫 浸水家屋 193 戸、 農地被害 2,511ha
昭和 48 年 8 月 16 日 ~ 18 日	台風・前線	230(名寄)	3,160 [3,500]	浸水家屋 1,255 戸、同半壊 6 戸、 氾濫面積 12,775ha
昭和 50 年 8 月 21 日 ~ 24 日	台風・前線	211(士別) 157(名寄)	2,790 [3,600]	浸水家屋 2,642 戸、氾濫面積 11,640ha、 農地被害 5,531ha
昭和 50 年 9 月 6 日 ~ 8 日	低気圧	109(円山)	2,700	浸水家屋 117 戸、氾濫面積 4,253ha、 農地被害 505ha
昭和 56 年 8 月 3 日 ~ 7 日	低気圧・ 前線・台風	283(士別) 226(名寄)	3,760 [4,400]	浸水家屋 546 戸、氾濫面積 15,625ha、 農地被害 14,070ha
平成 4 年 7 月 29 日 ~ 8 月 4 日	前線	124(名寄)	2,230	浸水家屋 9 戸、農地被害 288ha
平成 6 年 8 月 12 日 ~ 15 日	前線	130(士別)	1,770	浸水家屋 138 戸、農地被害 850ha
平成 13 年 9 月 8 日 ~ 12 日	前線・台風	183(士別) 181(名寄)	2,830	浸水家屋 2 戸、農地被害 315ha

注) 1. ( )内は観測所名  
2. 北海道開発局資料等から作成  
3. [ ]内は氾濫量及び岩尾内ダムによる調節量を戻して算出した値

## (2) 治水の現状と課題

天塩川及びその支川は未だ整備途上であり、名寄川合流後の天塩川及びその支川名寄川では、戦後最大規模に相当する洪水流量に対して、安全に流下するための河道断面がほぼ全川の不足している。特に、河川沿いに市街地等の人口や資産が集積しており、堤防整備や河道掘削による流下断面の確保と洪水調節施設による洪水ピーク流量の低減が必要である。

堤防整備、河道掘削、及びそれらの維持管理にあたっては、泥炭などの軟弱な地盤が広く分布している天塩川の下流部については、基盤すべりや沈下が生じるおそれがあり、特に堤防の安定性に留意する必要がある。また、河岸が堤防に接近している箇所では、洪水による河岸浸食・洗掘により堤防の安全性が損なわれるおそれがある。

堤防は、洪水等の経験を踏まえ、長い歴史を経て形成されてきたものである。その多くは河道の掘削土等を主体とする現地発生材から築造されているため、内部構造は、土質の多様さに加え、工学的にみても極めて複雑で不明確な部分が多い。このため、漏水や浸透に対して脆弱な部分もあることから、堤防が完成している箇所においても安全性の点検を行い、機能の維持及び安全性の確保を図るため、必要に応じて堤防強化対策を実施していく必要がある。

また、洪水時には本川等の高い水位の影響により、内水被害を生ずる箇所がある。現在設置されている樋門・樋管の中には、老朽化等により治水機能の確保に支障を生じているものもあり、改築等の対策が必要である。

さらに、治水施設の整備は長期間を要することと、計画規模を上回る洪水が発生する可能性があることから、その被害をできるだけ軽減するため、危機管理対策に努める必要がある。



## 1-2-2 河川の適正な利用及び河川環境の現状と課題

### (1) 現況の流況と水利用

天塩川の年間を通じた流況をみると、流域が積雪地域にあるため、4月から5月にかけての融雪期は年間を通じ最も流量が豊富になるが、かんがい期である夏と降雪期である冬において流量が減少する。

天塩川は、古くからかんがい用水を主体として水利用がなされてきており、現在、かんがい用水としては最大取水量約 77.6m<sup>3</sup>/s が利用されている。

天塩川における利水の現況は、表 1-3 に示すとおりであり、かんがい用水をはじめ鉱工業用水、水道用水などに広く使われており、さらに水力発電にも積極的に利用されている。

使用水量については、発電を除けば大半がかんがい用水であり、地域的には、名寄市、士別市等の上流部に水利用が集中している。

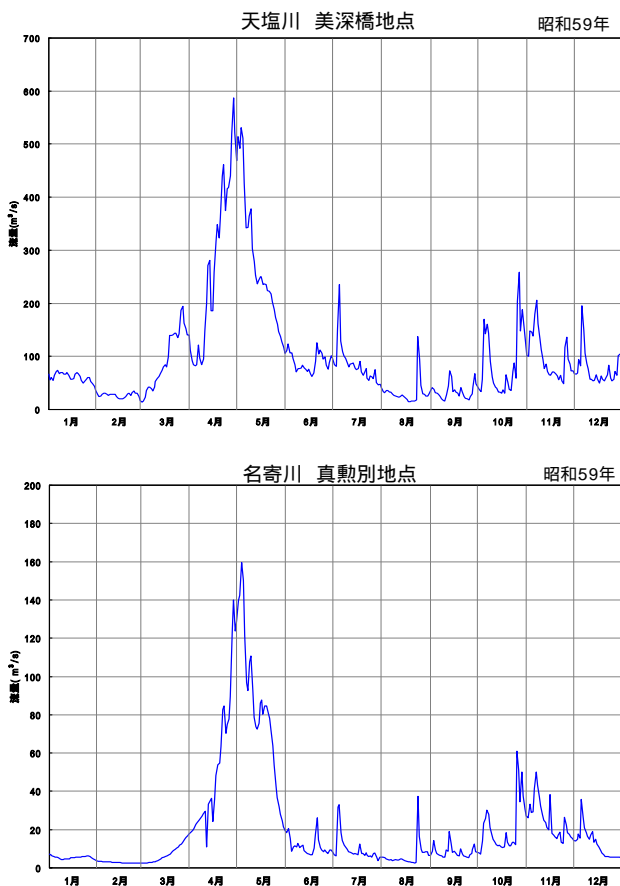


図 1-7 日流量の年変化図



図 1-6 位置図

表 1-2 天塩川流域の流況

河川名	観測所名	集水面積 (km <sup>2</sup> )	豊水流量 (m <sup>3</sup> /s)	平水流量 (m <sup>3</sup> /s)	低水流量 (m <sup>3</sup> /s)	渇水流量 (m <sup>3</sup> /s)
天塩川	美深橋	2,899.2	141.71	81.15	52.62	30.54
名寄川	真敷別	695.2	26.34	12.76	6.74	3.88

記載値は、観測期間(S43～H13)の年平均値

昭和 51 年、昭和 55 年、平成 5 年等において、積雪量の不足や夏場の雨不足による取水制限を行っており、昭和 53 年には、渇水時における関係利水者間の水利使用の調整を円滑に行うため、士別市長を会長とする「天塩川水系天塩川上流士別地区渇水調整協議会」が設置されている。

特に平成 5 年の渇水が深刻で、渇水調整協議会においてかんがい用水の取水制限を行ったが、岩尾内ダムの貯水量が底をつき、かんがい用水の取水がストップする事態となり、稲作等の農作物が被害を受けるに至った。

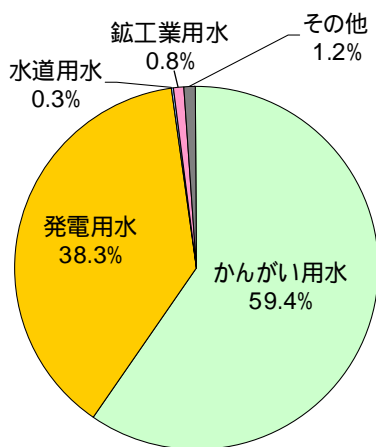


図 1-8 天塩川の水利権

表 1-3 天塩川の水利権

目的	件数	最大取水量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )
かんがい用水	281	77.57
発電用水	3	50.13
水道用水	6	0.33
鉱工業用水	3	1.08
その他	14	1.57
計	307	130.68

出典：「一級水系水利権調査」北海道開発局（H13.3月）

天塩川上流では、かんがい期はかんがい用水として取水されるため流量が減少する。また、秋期～春期にかけては、岩尾内ダム直下から約 1km の区間では、無水区間を生ずる場合がある。

このため、岩尾内ダムでは、平成 9 年度よりダム下流の河川環境の向上等に資することを目的として、洪水調節に支障を及ぼさない範囲で、洪水調節容量の一部に流水を貯留し、これを適切に放流することにより秋期における弾力的管理試験を行っている。

## (2) 水質

天塩川の水質汚濁に係る環境基準は、表 1-4 のとおり指定されている。

天塩川の水質を河川汚濁の一般的な指標である BOD についてみると、図 1-10 のとおり経年的に各地点とも環境基準値を満足し、概ね良好な水質を保っている。

また、天塩川の水質事故は、年間 10 件程度発生しており、それらのほとんどが油類の河川への流出である。引き続き関係機関と連携し、水質の保全、水質事故発生の防止に努める必要がある。

表 1-4 環境基準類型指定状況（昭和 47 年 4 月 1 日 北海道告示）

水域の範囲	類型	達成期間	環境基準地点名
天塩川上流、ペンケヌカナンブ川合流点から上流 （ペンケヌカナンブ川を含む）	AA	イ	朝 日 橋
天塩川中流、ペンケヌカナンブ川合流点から土別取水口まで	A	イ	中 土 別 橋
天塩川下流、（ 1 ）名寄川の名寄取水口から上流	A	イ	真 勲 別 頭 首 工
（ 2 ）パンケナイ川の全域	A	イ	下 中 川 捕 獲 場
（ 3 ）剣淵川の犬牛別川合流点から上流	A	□	1 2 線 橋
（ 4 ）土別取水口犬牛別川合流点及び名寄取水口下流	B	□	中 川 （ 誉 平 ）

注）達成期間の分類

イ：類型指定後直ちに達成すること。

□：類型指定後5年以内で可及的、速やかに達成すること。



図 1-9 環境基準地点及び類型指定位置図

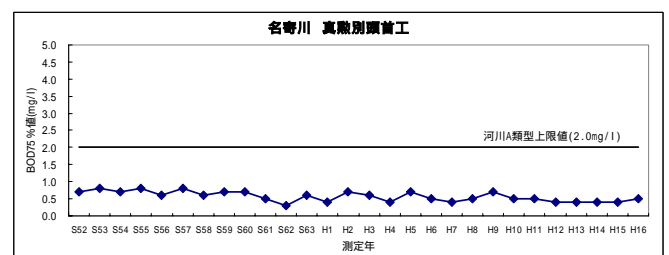
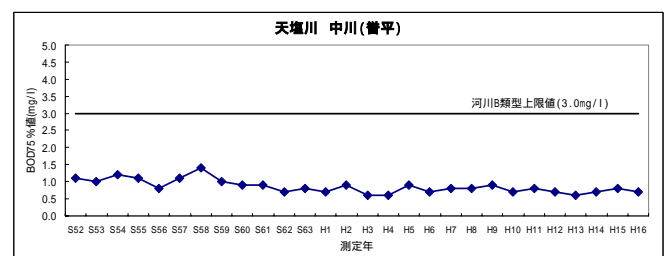
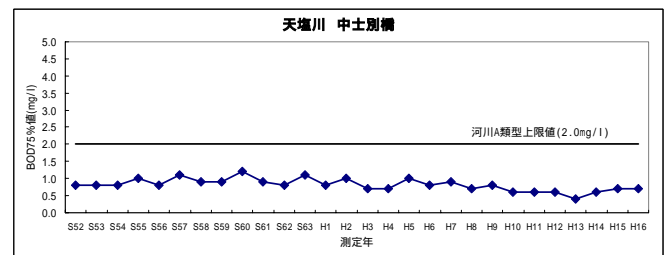
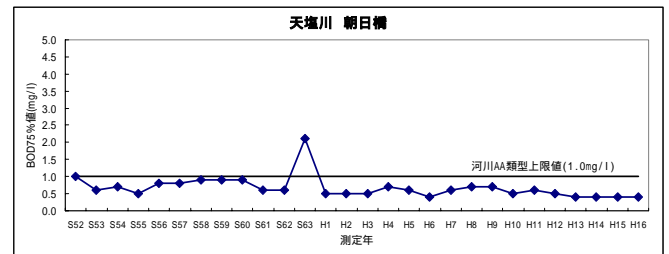


図 1-10 水質(BOD75%値)の経年変化

### (3) 動植物の生息・生育状況

天塩川の上・中流域において確認されている動植物は表 1-5 のとおりである。

表 1-5 天塩川上・中流域における動植物確認種

分類	科種数	確認種
哺乳類	7 科14 種	エゾトガリネズミ、オオアシトガリネズミ、エゾユキウサギ <sup>着</sup> 、エゾリス <sup>着</sup> 、ミカドネズミ <sup>着</sup> 、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ <sup>着</sup> 、エゾヒメネズミ <sup>着</sup> 、ドブネズミ、エゾタヌキ、キタキツネ、エゾクロテン <sup>特着</sup> 、ミンク <sup>外着</sup> 、エゾシカ <sup>着</sup>
鳥類	36 科103 種	留鳥 アオサギ <sup>着</sup> 、マガモ、カワアイサ、カワセミ <sup>着</sup> 、イワツバメ、アカモズ <sup>特</sup> 、エゾセンニュウ <sup>着</sup> 、コヨシキリ、ニュウナイスズメ他
		旅鳥 コハクチョウ <sup>特着</sup> 、コガモ、オジロワシ <sup>特着</sup> 他
爬虫類	1 科1 種	シマヘビ
両生類	2 科2 種	エゾサンショウウオ <sup>特着</sup> 、エゾアカガエル <sup>着</sup>
魚類	8 科19 種	カワヤツメ <sup>着</sup> 、スナヤツメ <sup>特</sup> 、ギンブナ、ヤチウグイ <sup>特</sup> 、モツゴ、エゾウグイ <sup>特</sup> 、ウグイ、ドジョウ、フクドジョウ、ワカサギ <sup>着</sup> 、サケ <sup>着</sup> 、サクラマス(ヤマメ) <sup>特着</sup> 、ニジマス <sup>外</sup> 、キタノトミヨ <sup>特着</sup> 、トミヨ <sup>着</sup> 、ハナカジカ <sup>特着</sup> 、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブ
陸上昆虫類等	183 科1371 種	ルリイトトンボ <sup>着</sup> 、ヘビトンボ <sup>着</sup> 、ヒゲナガカワトビケラ、サトウカクツツトビケラ、トランスクイラナガレトビケラ、ヒメギフチョウ <sup>特着</sup> 、ヒメウスバシロチョウ、チュウジョウヒラタゴミムシ、アオゴミムシ、ヒメヒラタゴミムシ、メダカチビカワゴミムシ、カギモンミズギワゴミムシ、オオクロナガゴミムシ他
底生動物	63 科102 種	モノアラガイ <sup>特</sup> 、カワシンジュガイ <sup>特</sup> 、ミズミズ科の一種、ヒメヒラタカゲロウ、ムカシトンボ <sup>特着</sup> 、ヘビトンボ <sup>着</sup> 、キタシマトビケラ、Antocha属の一種、エリユスリカ亜科の一種他
植物	70 科276 種	ドロノキ、エゾノクヌヤナギ、エゾヤナギ、オノエヤナギ、ケヤマハンノキ、オオイタドリ、オオバタチツボスミレ <sup>特着</sup> 、エゾノカワヂシャ <sup>着</sup> 、クサヨシ、タマミクリ <sup>特着</sup> 他

注1) 上記は岩尾内ダム下流より問寒別川合流部までの天塩川及び名寄川における河川水辺の国勢調査の調査結果による。

注2) 鳥類、魚類の科種名は河川水辺の国勢調査の最新2回分(平成6年～平成15年)より、その他は最新1回分(平成12年～平成15年)の調査結果による。

注3) 特: 環境省及び北海道レッドデータブック等の記載種、着: 着目種(天塩川水系流域において着目または留意すべき生物・生育地など)、外: 外来種を示す。

注4) 陸上昆虫類等には、カゲロウ類、トビケラ類、カワゲラ類等の水生昆虫類の成虫、クモ類を含む。

天塩川上・中流域の河川沿いにはオノエヤナギ等からなるヤナギ林、オオイタドリ、クサヨシ等の草本群落等が分布する。魚類では礫底の流水域を好むフクドジョウ、サクラマス(ヤマメ)、ハナカジカ等が生息している。水面や水際では、水辺の生き物を主な餌とするカワアイサ、カワセミ等がみられ、ヤナギ林では明るい林を好むニュウナイスズメ等、草本群落では草原性のコヨシキリ等が生息している。



カワセミ



サクラマス(ヤマメ)



ハナカジカ

天塩川下流域において確認されている動植物は表 1-6 のとおりである。

表 1-6 天塩川下流域における動植物確認種

分類	科種数	確認種
哺乳類	9 科15 種	オオアシトガリネズミ、エゾユキウサギ <sup>着</sup> 、エゾリス <sup>着</sup> 、ミカドネズミ <sup>着</sup> 、エゾヤチネズミ、ミヤマムクゲネズミ <sup>特</sup> 、エゾアカネズミ <sup>着</sup> 、ドブネズミ、アライグマ <sup>外</sup> 、エゾタヌキ、キタキツネ、ニホンイイズナ、ミンク <sup>着外</sup> 、ゴマフアザラシ、エゾシカ <sup>着</sup>
鳥類	36 科136 種	留鳥 アオサギ <sup>着</sup> 、マガモ、シノリガモ、アカエリカイツブリ <sup>着</sup> 、ミサゴ <sup>特着</sup> 、チュウヒ <sup>特着</sup> 、オオジシギ <sup>特着</sup> 、カワセミ <sup>着</sup> 、ショウドウツバメ <sup>他</sup>
		旅鳥 コハクチョウ <sup>特着</sup> 、カワアイサ <sup>着</sup> 、オジロワシ <sup>特着</sup> <sup>他</sup>
爬虫類	1 科1 種	アオダイショウ
両生類	3 科3 種	エゾサンショウウオ <sup>特着</sup> 、アマガエル、エゾアカガエル <sup>着</sup>
魚類	11 科34 種	カワヤツメ <sup>着</sup> 、スナヤツメ <sup>特</sup> 、ニシン、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、コイ、マルタ <sup>特</sup> 、モツゴ <sup>外</sup> 、ヤチウグイ <sup>特</sup> 、エゾウグイ <sup>特</sup> 、ウグイ、ボラ、ドジョウ、フクドジョウ、ワカサギ <sup>着</sup> 、アメマス、イトウ <sup>特着</sup> 、サケ <sup>着</sup> 、サクラマス(ヤマメ) <sup>特着</sup> 、ニジマス <sup>外</sup> 、イトヨ <sup>特</sup> 、キタノトミヨ <sup>特着</sup> 、トミヨ <sup>着</sup> 、エソトミヨ <sup>着</sup> 、ハナカジカ <sup>特着</sup> 、アシシロハゼ、ピリンゴ、ジュズカケハゼ、シマウキゴリ、ウキゴリ、ミミズハゼ <sup>特</sup> 、トウヨシノボリ、ヌマチチブ、ヌマガレイ
陸上昆虫類等	174 科902 種	ツノヒゲゴミムシ、カラフトヨツツジハナカミキリ <sup>特着</sup> 、カバイロシジミ <sup>着</sup> 、ゴマシジミ <sup>特</sup> 、コムラサキ <sup>着</sup> <sup>他</sup>
底生動物	66 科108 種	モノアラガイ <sup>特</sup> 、カワシンジュガイ <sup>特</sup> 、ヤマトシジミ、オヨギミズ科の一種、スジエビ、フタバコカゲロウ、ムカシトンボ <sup>特着</sup> 、キタシマトビケラ、ユスリカ亜科の一種 <sup>他</sup>
植物	82 科394 種	エゾノキヌヤナギ、オノエヤナギ、ケヤマハンノキ、オオイタドリ、オオバタチツボスミレ <sup>特着</sup> 、エゾナミキソウ <sup>特</sup> 、タヌキモ <sup>特着</sup> 、ミクリ <sup>特着</sup> 、クサヨシ、ヨシ、クマイザサ <sup>他</sup>

注1) 上記は問寒別川合流部より下流の天塩川及び問寒別川における河川水辺の国勢調査の調査結果による。

注2) 鳥類、魚類の科種名は河川水辺の国勢調査の最新2回分(平成6年～平成15年)より、その他は最新1回分(平成12年～平成15年)の調査結果による。

注3) 特：環境省及び北海道レッドデータブック等の記載種、着：着目種(天塩川水系流域において着目または留意すべき生物・生育地など)、外：外来種を示す。

注4) 陸上昆虫類等には、カゲロウ類、トビケラ類、カワゲラ類等の水生昆虫類の成虫、クモ類を含む。

天塩川下流域の河川沿いにはクサヨシ、ヨシ等の草本群落が多くみられるほか、オノエヤナギ等からなるヤナギ林、ハマニンニク・コウボウムギ群落等からなる海浜植生等が分布する。魚類では緩流域を好むスナヤツメ、イトウ、ウキゴリ等のほか、汽水性のマルタ、アシシロハゼ等が生息している。水面や水際では、水辺の生き物を主な餌とするアオサギ、オジロワシ、カワセミ等がみられ、草本群落では草原性のチュウヒ、オオジシギ等が生息している。



イトウ



オジロワシ



チュウヒ

岩尾内ダム周辺において確認されている動植物は表 1-7 のとおりである。

表 1-7 岩尾内ダム周辺における動植物確認種

分類	科種数	確認種	
哺乳類	8 科18 種	カラフトヒメトガリネズミ、エゾトガリネズミ、オオアシトガリネズミ、エゾユキウサギ <sup>着</sup> 、エゾリス <sup>着</sup> 、エゾシマリス <sup>着</sup> 、エゾモモンガ、ミカドネズミ <sup>着</sup> 、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ <sup>着</sup> 、エゾヒメネズミ <sup>着</sup> 、ドブネズミ、エゾヒグマ、エゾタヌキ、キタキツネ、エゾクロテン <sup>特着</sup> 、ニホンイイズナ、エゾシカ <sup>着</sup>	
鳥類	33 科94 種	留鳥 夏鳥	アオサギ <sup>着</sup> 、オシドリ <sup>特着</sup> 、マガモ、カワアイサ、ミサゴ <sup>特着</sup> 、オオジシギ <sup>特着</sup> 、クマゲラ <sup>特</sup> 、アカショウビン <sup>特</sup> 、イワツバメ他
		旅鳥 冬鳥	コガモ、ツグミ、マヒワ他
爬虫類	2 科4 種	カナヘビ、シマヘビ、ジムグリ、アオダイショウ	
両生類	3 科3 種	エゾサンショウウオ <sup>特着</sup> 、アマガエル、エゾアカガエル <sup>着</sup>	
魚類等	5 科11 種	ギンブナ、コイ、エゾウグイ <sup>特</sup> 、ウグイ、フクドジョウ、ワカサギ <sup>着</sup> 、アメマス、サクラマス(ヤマメ) <sup>特着</sup> 、ニジマス <sup>外</sup> 、ブラウントラウト <sup>外</sup> 、ハナカジカ <sup>特着</sup>	
陸上昆虫類等	237 科1667 種	エゾコモリグモ、リンゴシジミ <sup>特</sup> 、オオイチモンジ <sup>特</sup> 、ヒメギフチョウ <sup>特着</sup> 、ヒメウスバシロチョウ、コブスジアカガネオサムシ、ヒメクロオサムシ、マルガタナガゴミムシ、ツンベルグナガゴミムシ、コクロツヤヒラタゴミムシ、ヒラタシテムシ、ヒメナカウスエダシャク、ミスジツマキリエダシャク他	
底生動物	61 科107 種	ヒドラ科の一種、イトミズシ科の数種、エルモンヒラタカゲロウ、ムカシトンボ <sup>特着</sup> 、ヘビトンボ <sup>着</sup> 、ウルマーシマトビケラ、ユスリカ亜科の一種他	
植物	84 科335 種	トドマツ、エゾノキヌヤナギ、オノエヤナギ、オヒョウ、ミズナラ、カツラ、オオイタドリ、オオバタチツボスミレ <sup>特着</sup> 、オオヨモギ、クマイザサ他	

注1) 上記は岩尾内ダム周辺における河川水辺の国勢調査結果による。

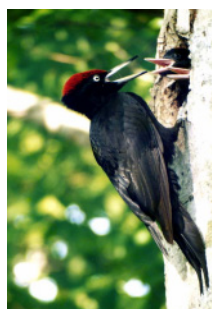
注2) 鳥類の科種名は河川水辺の国勢調査の最新2回分(平成4年～平成12年)、魚類の科種名は河川水辺の国勢調査の最新2回分(平成8年～平成13年)より、その他は最新1回分(平成12年～平成15年)の調査結果による。

注3) 調査区域は湛水予定区域及びその周辺区域、ダム下流の区域等である。

注4) 特：環境省及び北海道レッドデータブック等の記載種、着：着目種(天塩川水系流域において着目または留意すべき生物・生育地など)、外：外来種を示す。

注5) 陸上昆虫類等には、カゲロウ類、トビケラ類、カワゲラ類等の水生昆虫類の成虫、クモ類を含む。

岩尾内ダムは、大きな湖面が広がり、周辺にはミズナラ、トドマツ等からなる針広混交林、オヒョウ、カツラ等からなる溪畔林等がみられる。ダムの直下流や流入河川は流れが速く、河川沿いにはヤナギ林等が分布している。魚類では、池沼や緩流域を好むエゾウグイ、ワカサギ等がダム湖に生息しているほか、直下流や流入河川には礫底の流水域を好むアメマス、フクドジョウ、ハナカジカ等が生息している。湖面や湖岸では、水辺の生き物を主な餌とするアオサギ、カワアイサ、ミサゴ等がみられ、ダム湖周辺の針広混交林等では森林性のクマゲラ、マヒワ等が生息している。



クマゲラ



エゾウグイ



ハナカジカ

サンルダム予定地周辺において確認されている動植物は表 1-8 のとおりである。

表 1-8 サンルダム予定地周辺における動植物確認種

分類	科種数	確認種	
哺乳類	9 科20 種	カラフトヒメトガリネズミ、エゾトガリネズミ、オオアシトガリネズミ、ヤマコウモリ <sup>特</sup> 、Myotis類(コウモリの仲間)、エゾユキウサギ <sup>着</sup> 、エゾリス <sup>着</sup> 、エゾシマリス <sup>着</sup> 、エゾモンガ、ミカドネズミ <sup>着</sup> 、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ <sup>着</sup> 、エゾヒメネズミ <sup>着</sup> 、クマネズミ、エゾヒグマ、エゾタヌキ、キタキツネ、エゾクロテン <sup>特</sup> 、ニホンイイズナ、エゾシカ <sup>着</sup>	
鳥類	35 科109 種	留鳥 夏鳥	オシドリ <sup>特</sup> 、マガモ、カワアイサ、イソシギ、オオジシギ <sup>特</sup> 、カワセミ <sup>着</sup> 、ヤマセミ、カワガラス <sup>着</sup> 、イワツバメ、エゾセンニュウ <sup>着</sup> 他
		旅鳥 冬鳥	コガモ、ツグミ他
爬虫類	1 科2 種	シマヘビ、アオダイショウ	
両生類	3 科3 種	エゾサンショウウオ <sup>特</sup> 、アマガエル、エゾアカガエル <sup>着</sup>	
魚類等	7 科15種	カワヤツメ <sup>着</sup> 、スナヤツメ <sup>特</sup> 、ギンブナ、ヤチウグイ <sup>特</sup> 、エゾウグイ <sup>特</sup> 、ウグイ、ドジョウ、フクドジョウ、アメマス、サクラマス(ヤマメ) <sup>特</sup> 、ニジマス <sup>外</sup> 、トミヨ <sup>特</sup> 、ハナカジカ <sup>特</sup> 、ウキゴリ、ヨシノボリ属の1種	
陸上昆虫類等	237 科2119 種	ムカシトンボ <sup>特</sup> 、ギンイチモンジセセリ <sup>特</sup> 、チャマダラセセリ <sup>特</sup> 、カバイロシジミ <sup>特</sup> 、ゴマシジミ <sup>特</sup> 、オオイチモンジ <sup>特</sup> 、ヒメギフチョウ <sup>特</sup> 、シロオビヒメヒカゲ <sup>特</sup> 他	
底生動物	58 科104 種	カワシンジュガイ <sup>特</sup> 、ザリガニ <sup>特</sup> 、チラカゲロウ、ムカシトンボ <sup>特</sup> 、ヘビトンボ <sup>着</sup> 、ウルマーシマトビケラ、ニンギョウトビケラ他	
植物	87 科484 種	トドマツ、シラカンバ、ミズナラ、ハルニレ、エゾイタヤ、ヤチダモ、ヤマハナソウ <sup>特</sup> 、オオバタチツボスミレ <sup>特</sup> 、イソツツジ <sup>特</sup> 、オオヨモギ、クマイザサ他	

注1) 上記はサンルダム建設事業に係る平成元年～平成15年までの既往調査結果による。

注2) 調査区域は湛水予定区域及びその周辺区域、ダム下流の区域等である。

注3) 特：環境省及び北海道レッドデータブック等の記載種並びに環境影響評価時の予測対象種、着：着目種(天塩川水系流域において着目または留意すべき生物・生育地など)、外：外来種を示す。

注4) 陸上昆虫類等には、カゲロウ類、トビケラ類、カワゲラ類等の水生昆虫類の成虫、クモ類を含む。

サンルダム予定地周辺の山地には、ミズナラ等からなる針広混交林、トドマツ等の植林地などがみられ、河川沿いの低地には牧草地、雑草地等が分布している。河川は流れが速く、瀬・淵が明瞭であり、河川沿いにはヤナギ林等が分布している。魚類では礫底の流水域を好むフクドジョウ、サクラマス(ヤマメ)、ハナカジカ等が生息している。水面や水際では、水辺の生き物を主な餌とするカワセミ、カワガラス等のほか、樹洞に営巣するオシドリ等が見られ、草本群落では草原性のオオジシギ等が生息している。



サンルダム予定地周辺



オオジシギ



サクラマス(ヤマメ)



イソツツジ

#### (4) 河川景観

天塩川の河川景観を特徴付けるのは、テッシや河畔林、旧川である。

天塩川の中流部には、その名前の由来となった「テッシ」(梁のような岩)が多く、天塩川らしい河川景観を形成している。また、この区間には、河畔林が連続して形成されている。

天塩川では過去の捷水路工事等により多くの旧川が形成されており、これらは原始の天塩川の姿を物語る水辺空間として天塩川らしい河川景観となっている。

特に下流部においては、沿川に広がる採草放牧地と緩勾配でゆったりとした流れと相まって牧歌的な風情を醸し出している。

支川サロベツ川流域には、広大なサロベツ湿原が広がり、利尻礼文サロベツ国立公園に指定されている。湿原内の原生花園では、多様な湿原植物が見られる。特に、6月から7月にかけて開花するエゾカンゾウの鮮やかな黄色は見事な景色を演出している。



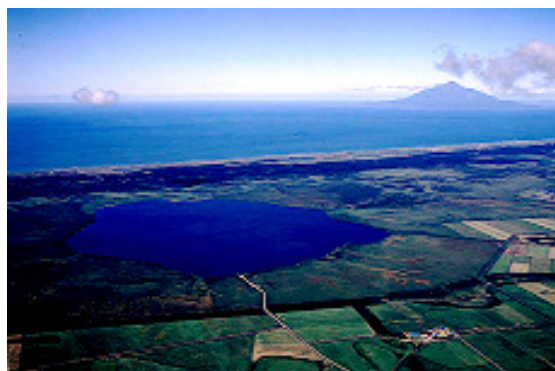
恩根内テッシ



河畔林(美深大橋上流)



美深旧川



サロベツ湿原



#### (5) 河川空間の利用

天塩川は散策、釣り、カヌーツーリング等、河川や自然とのふれあいの場として利用されている。流域の各市町村の市街地の河川敷や、美深町・幌延町等の多くの旧川を中心とする河川空間は、親水活動や環境教育に広く利用されている。また、現在では、河口から約 158km にわたり堰等の横断工作物が設置されていないことから、カヌーで上下流を縦断する「ダウン・ザ・テッシ-オ-ペッ」をはじめとする各種のカヌーツーリングが毎年開催される等、河川を利用するイベントも開催されている。その他子供を対象とした水生生物調査など、身近な自然体験活動の場としても利用されている。



図 1-11 河川空間の利用の様子

### 1-3 河川整備計画の目標

#### 1-3-1 河川整備の基本理念

道北地域の中核を担う天塩川流域は、安全でゆとりある快適な地域社会の形成、食糧基地としての役割強化、水と緑のネットワークを活かした観光・保養基地の形成、流域の人々の連携・協働による地域づくりを通じ、道北地域を先導する役割を果たすことが期待されている。

天塩川には、道北につながる唯一の幹線である国道 40 号や JR 宗谷本線が併走しているほか、沿川の市街地等には人口・資産が集積している。また、天塩川には豊かな自然が残されているとともに周辺地域と一体となった天塩川らしい河川景観を形成している。

このため、天塩川の河川整備は、水系一貫の視点を持ち、北海道や関係市町村等、関係機関の施策と連携を図り、市街地の発展や農地の利用状況等を踏まえた上で、次のような方針に基づき総合的、効果的に推進する。

#### 【洪水等による災害の発生防止又は軽減について】

天塩川本支川沿いの市街地等に人口や資産が集積していることから、河川の氾濫や内水浸水による被害を軽減するため、本支川及び上下流のバランスに配慮しつつ洪水時の水位の上昇をできるだけ抑える対策を講じる。このため、洪水調節施設により洪水を調節し、下流の負荷を極力軽減するとともに、河道の安定に配慮しつつ河道断面の増大を図る。

#### 【河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持について】

流水の正常な機能を維持するため必要な流量の確保に努めるとともに、今後の水需要に対しては、新たな水資源の開発と併せ合理的な水利用を促進する。

#### 【河川環境の整備と保全について】

天塩川水系の有する河川環境の特性に配慮し、生物の生息・生育環境の保全・形成に努める。

また、市街地や周辺農地および森林地帯と調和した天塩川水系らしい水辺景観の保全・形成に努める。

#### 【河川の維持管理について】

洪水等による災害発生の防止又は軽減、河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全が図られるよう、総合的な視点に立って河川の維持管理を行う。また、地域住民、関係機関と連携・協働して適切な維持管理に努める。

河道や河川管理施設をはじめ、流水や河川環境等について定期的にモニタリングを行い、その状態の変化に応じた順応的管理(アダプティブ・マネジメント)に努める。

なお、河川は、地域の歴史、風土、発展とも密接に関わっていることから、その整備と保全にあたっては、継続的にその変化をモニタリングしつつ地域住民や学識者、関係機関等と協働して取り組む。

### 1-3-2 河川整備計画の対象区間

本河川整備計画は、河川管理者である北海道開発局長が河川法第16条の2に基づき、天塩川水系の指定区間外区間(大臣管理区間)及び河川法施行令第2条第7号の区間(以下「2条7号区間」という。)を対象に定めるものである。本計画の対象区間を表1-9及び図1-12に示す。

表 1-9 河川整備計画の対象区間(1)

河川名	区間			備考
	上流端(目標物)	下流端	延長(km)	
天塩川	左岸 北海道上川郡朝日町国有林上川北部経営計画朝日事業区 149 林班い小班地先	海	227.1	指定区間外区間
	右岸 同町国有林上川北部経営計画朝日事業区 137 林班い小班地先			
円山ウブシ川	左岸 北海道天塩郡天塩町字オヌブナイ 5621 番地先	天塩川への合流点	0.7	2条7号区間
	右岸 同町同字 7361 番 1 地先			
東六線川	左岸 北海道天塩郡天塩町字オヌブナイ 5389 番 1 地先	天塩川への合流点	1.2	2条7号区間
	右岸 同町同字 5438 番 1 地先			
円山赤川	左岸 北海道天塩郡天塩町字オヌブナイ 1106 番 1 地先	東六線川への合流点	1.6	2条7号区間
	右岸 同町同字 1107 番地先			
雄信内川	七線沢の合流点	天塩川への合流点	2.0	指定区間外区間
問寒別川	北海道天塩郡幌延町字上問寒 637 番地先の農道橋下流端	天塩川への合流点	24.5	指定区間外区間
宇戸内川	左岸 北海道中川郡中川町字上国子府 122 番地先	天塩川への合流点	0.7	2条7号区間
	右岸 同町同字 56 番地先(宗谷本線鉄道橋下流端)			
パンケナイ川	北海道中川郡中川町字中川 58 番 5 地先の上流端を示す標柱	天塩川への合流点	0.8	2条7号区間
銅蘭川	左岸 北海道中川郡中川町字中川 428 番 10 地先	天塩川への合流点	0.2	2条7号区間
	右岸 同町同字 416 番 1 地先(宗谷本線鉄道橋下流端)			
安平志内川	左岸 北海道中川郡中川町字安川 151 番 1 地先	天塩川への合流点	2.2	2条7号区間
	右岸 同町同字 514 番地先			
ルベシベ川	左岸 北海道中川郡中川町字安川 127 番 1 地先	安平志内川への合流点	0.5	2条7号区間
	右岸 同町同字 126 番 1 地先			
音威子府川	左岸 北海道中川郡音威子府村字音威子府 384 番地先	天塩川への合流点	1.1	2条7号区間
	右岸 同町同字 383 番地先			
ウルベシ川	左岸 北海道中川郡美深町字川西 28 番地先	天塩川への合流点	1.4	2条7号区間
	右岸 同町同字 135 番地先			

表 1-9 河川整備計画の対象区間(2)

河川名	区間			備考	
	上流端(目標物)	下流端	延長(km)		
美深川	左岸	北海道中川郡美深町字西1条南4丁目3番2地先	天塩川への合流点	0.8	2条7号区間
	右岸	同町字西1条南4丁目4番20地先			
美深六線川	左岸	北海道中川郡美深町76番地先	天塩川への合流点	1.0	2条7号区間
	右岸	同町同字66番地先			
川西六線川	左岸	北海道中川郡美深町西16番地先	天塩川への合流点	0.5	2条7号区間
	右岸	同町同字14番地先			
美深五線川	左岸	北海道中川郡美深町美深99番地先	天塩川への合流点	0.5	2条7号区間
	右岸	同町同字90番地先			
イオナイ川	名寄市字チエブ原野2191番地先		天塩川への合流点	1.3	2条7号区間
ペンケニウブ川	左岸	北海道中川郡美深町字美深432番地先	天塩川への合流点	0.8	2条7号区間
	右岸	名寄市字チエブ原野2331番地先(宗谷本線鉄道橋の下流端)			
名寄川	然別川の合流点		天塩川への合流点	34.1	指定区間外区間
矢文川	左岸	北海道上川郡下川町字名寄3211番の1地先	名寄川への合流点	0.5	2条7号区間
	右岸	同町字上名寄8100番地先			
サンル川	左岸	北海道上川郡下川町字名寄3151番の4地先	名寄川への合流点	0.6	2条7号区間
	右岸	同町字上名寄原野3508番67地先			
	左岸	北海道上川郡下川町珊瑚1518番地	一の沢川の合流点	9.7	サンルダム区間
	右岸	同町珊瑚1081番地			
サンル十二線川	左岸	北海道上川郡下川町珊瑚730番地	サンル川への合流点	1.0	サンルダム区間
	右岸	同町珊瑚697番地			
下川ペンケ川	左岸	北海道上川郡下川町字名寄4212番地先	名寄川への合流点	1.1	2条7号区間
	右岸	同町同字4213番地先			
豊栄川	名寄市豊栄270番の5地先		天塩川への合流点	5.0	2条7号区間
風連別川	北海道上川郡風連町字東風連1282番地先の国鉄橋下流端		天塩川への合流点	3.4	指定区間外区間
タヨロマ川	左岸	北海道上川郡風連町字瑞生60番地先	天塩川への合流点	5.8	2条7号区間
	右岸	同町同字52番地先(町道25線橋)			
	左岸	北海道上川郡風連町字瑞生1536番の1地先	新タヨロマ川への合流点	0.4	2条7号区間
	右岸	同町同字1851番地先			
新タヨロマ川	タヨロマ川からの分岐点		天塩川への合流点	3.1	2条7号区間
オーツナイ川	左岸	士別市下士別町871番地先	新タヨロマ川への合流点	1.3	2条7号区間
	右岸	同市同町870番の1地先			
初茶志内川	左岸	名寄市字弥生666番地先	天塩川への合流点	1.3	2条7号区間
	右岸	同市同字665番地先			
トーフトナイ川	左岸	北海道上川郡風連町字西風連323番地先	天塩川への合流点	1.3	2条7号区間
	右岸	同町同字224番地先			

表 1-9 河川整備計画の対象区間(3)

河川名	区間			備考
	上流端(目標物)	下流端	延長(km)	
剣淵川	左岸 士別市西士別町 1287 番地の 1 地先	天塩川への合流点	1.6	指定区間外区間
	右岸 同市北町 414 番の 12 地先			
ワッカウエンナイ川	左岸 士別市中士別町 799 番の 1 地先	天塩川への合流点	0.8	2 条 7 号区間
	右岸 同市同町 884 番の 11 地先			
東内大部川	左岸 士別市上士別町 2377 番の 1 番地先	天塩川への合流点	0.8	2 条 7 号区間
	右岸 同市同町 2378 番地先			
ヌプリシロマナイ川	左岸 北海道上川郡朝日町字奥士別 4013 番の 3 地先	天塩川への合流点	0.6	2 条 7 号区間
	右岸 同町同字 4013 番の 4 地先			
岩尾内川	左岸 北海道上川郡朝日町国有林上川北部経営計画朝日事業区 35 林班は小班地先	天塩川への合流点	3.5	岩尾内ダム区間
	右岸 同町国有林上川北部経営計画朝日事業区 29 林班い小班地先			
サックル川	左岸 北海道上川郡朝日町国有林上川北部経営計画朝日事業区 63 林班と小班地先	天塩川への合流点	2.4	岩尾内ダム区間
	右岸 同町国有林上川北部経営計画朝日事業区 40 林班と小班地先			
似峡川	左岸 北海道上川郡朝日町国有林上川北部経営計画朝日事業区 96 林班へ小班地先	天塩川への合流点	1.7	岩尾内ダム区間
	右岸 同町字新奥士別 4206 番地先			
於鬼頭川	左岸 北海道上川郡朝日町国有林上川北部経営計画朝日事業区 106 林班れ小班地先	天塩川への合流点	0.5	岩尾内ダム区間
	右岸 同町国有林上川北部経営計画朝日事業区 97 林班る小班地先			

注) 2 条 7 号区間とは、指定区間外区間(大臣管理区間)の改良工事と一体として施工する必要があるため、河川法施行令第 2 条第 7 号に基づき、国が工事を施行する一級河川の指定区間(知事管理区間)。



图 1-12 指定区間外区間(大臣管理区間)

### 1-3-3 河川整備計画の対象期間等

本河川整備計画は、天塩川水系河川整備基本方針に即し、天塩川の総合的な管理が確保できるよう河川整備の目標及び実施に関する事項を定めるものである。その対象期間は概ね30年とする。

本計画は、これまでの災害の発生状況、現時点の課題や河道状況等に基づき策定するものであり、河川整備の進捗、河川状況の変化、新たな知見、技術的進歩、社会経済の変化等にあわせ、必要な見直しを行うものとする。

### 1-3-4 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

洪水による災害の発生の防止及び軽減に関しては、河川整備基本方針で定めた目標に向けた段階的整備を総合的に勘案し、戦後最大規模の洪水流量により想定される被害の軽減を図ることを目標とし、河川整備計画の目標流量を表1-10に示すように基準地点の誉平において4,400m<sup>3</sup>/sとし、このうち、既設の岩尾内ダム及びサンルダムにより500m<sup>3</sup>/sを調節して河道への配分流量を3,900m<sup>3</sup>/sとする。

同様に名寄大橋地点では、目標流量を2,000m<sup>3</sup>/sとし、岩尾内ダムにより200m<sup>3</sup>/sを調節して河道への配分流量を1,800m<sup>3</sup>/sとする。また名寄川の真勲別地点では目標流量を1,500m<sup>3</sup>/sとし、サンルダムにより300m<sup>3</sup>/sを調節して河道への配分流量を1,200m<sup>3</sup>/sとする。

河道断面が不足している区間については、河川環境に配慮しながら必要な河道断面を確保して洪水被害の軽減を図る。河道断面の確保にあたっては、本支川及び上下流のバランスを考慮し、水系として一貫した整備を行う。

また、局所的な深掘れや河岸侵食により、災害発生のおそれがある箇所については、河道の安定化を図る。

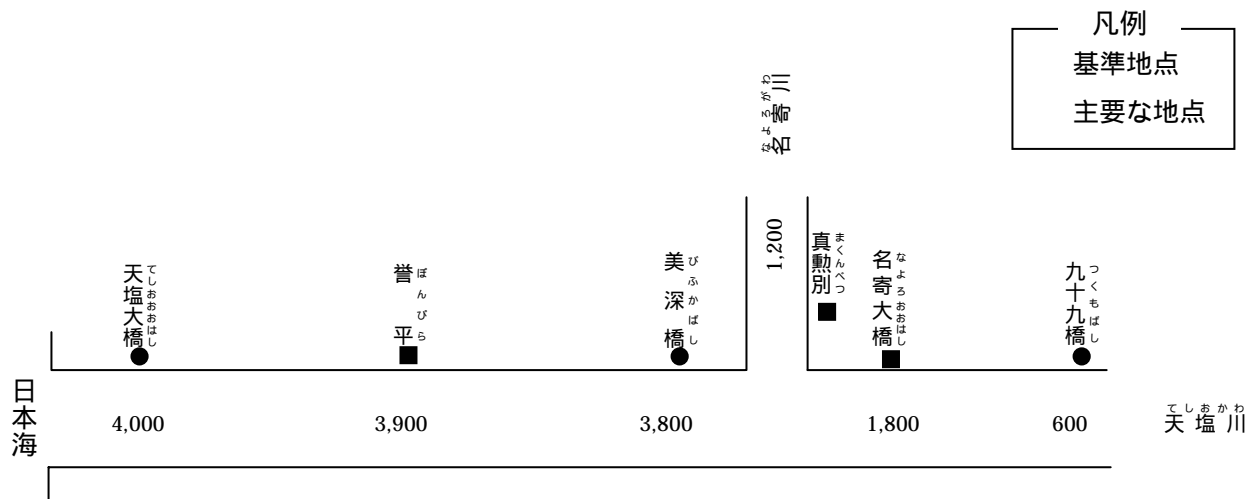
一方、内水被害が想定される地域では、内水被害の軽減を図る。

さらに、計画規模を上回る洪水や整備途上段階に施設能力以上の洪水が発生した場合でも被害をできるだけ軽減するよう必要な対策を講じる。

表 1-10 河川整備計画の目標流量

河川名	基準地点名	目標流量	河道への配分流量
天塩川	名寄大橋	2,000 m <sup>3</sup> /s	1,800 m <sup>3</sup> /s
	誉平	4,400 m <sup>3</sup> /s	3,900 m <sup>3</sup> /s
名寄川	真勲別	1,500 m <sup>3</sup> /s	1,200 m <sup>3</sup> /s





(単位：m<sup>3</sup>/s)

図 1-13 主要な地点における河道への配分流量

表 1-11 主要な地点における計画高水位

河川名	主要地点名	河口又は合流点からの距離(km)	計画高水位 T.P.(m)
天塩川	九十九橋	177.1	135.42
	名寄大橋	151.2	95.62
	美深橋	128.1	74.66
	誉平	58.9	19.27
	天塩大橋	18.6	6.93
名寄川	真勲別	8.4	106.32

注)T.P.: 東京湾中等潮位

### 1-3-5 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

#### (1) 流水の正常な機能の維持に関する目標

流況、利水の現況、動植物の保護・漁業、観光・景観、流水の清潔の保持等の各項目に必要な流量を考慮し、概ね10年に1回起こりうる渇水時において、表1-12に示す天塩川における流水の正常な機能を維持するため必要な流量を、利水補給と相まって確保する。

なお、水利使用の変更に伴い、当該流量は増減するものである。

表 1-12 流水の正常な機能を維持するため必要な流量

主要な地点	必要な流量	
	かんがい期	非かんがい期
美深橋	概ね 20m <sup>3</sup> /s	概ね 20m <sup>3</sup> /s
真勲別	最大概ね 6.0m <sup>3</sup> /s	概ね 5.5m <sup>3</sup> /s

#### (2) 河川水の適正な利用に関する目標

岩尾内ダムをはじめとする既存の流水の補給施設、取排水施設における取排水及び流況の適正な管理を行うとともに、合理的な流水管理や利用の促進に努める。

### 1-3-6 河川環境の整備と保全及び河川空間の利用に関する目標

#### (1) 河川環境の整備と保全に関する目標

天塩川を特徴づけるテッシ、河畔林、旧川などについては、多様な生物の生息・生育の場となっていることから、治水面と整合を図りつつ、その保全に努める。また、河畔林については、生物の移動経路としての機能を有していることから縦断的な連続性や周辺樹林地との連続性の確保に努める。

天塩川の水質は、河川汚濁の一般的な指標であるBOD(75%値)が環境基準値を概ね満足していることから、良好な水質の保全を図るため、関係機関や地域住民と連携しながら、その維持に努める。

#### (2) 河川空間の利用に関する目標

天塩川の河川空間の利用の現状を踏まえ、河川環境の整備と保全が適切に行われるよう、地域住民や自治体との共通認識のもと秩序ある利用に努める。

天塩川の豊かな自然環境を、人と河川とのふれあいの場や環境学習の場として活用できるように、関連する計画との整合を図りながら、関係機関や地域住民と一体となって自然を活かした親水空間の整備に取り組む。